

安心して「働き」「暮らせる」感染対策と環境づくりに

目標150万円の「ひろがれ募金」に

皆様のご協力を心よりお願い申し上げます



5類になっても押し寄せた『第11波』 検査や治療の負担増

8月は記録的な猛暑と、変異株「KP3」感染拡大「第11波」が押し寄せる中、オリンピック、お盆が過ぎ、日常生活や活動がスタートしました。上京ワークハウスでは、5月に職員・利用者の感染者が8名判明し、その後も関係者や周囲で感染が報告されています。5月はクラスターを防ぐために上京ワークハウスを休業、自宅待機の協力をお願いしました。検査は実費で治療薬は高額のため、障害のある皆さんの健康や生活を十分に護ることができず、マスク着用や手洗い、換気などの感染対策を続ける他に手立てはありません。

ストレスが高まる日中活動 支援のありかたや環境づくりは不可欠

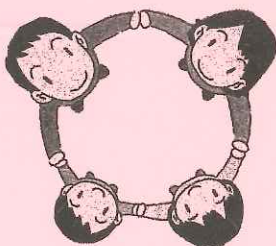
それに加えて、気候変動、インバウンドで混雑する交通機関の影響を受ける中、うまく伝えられない、対応が難しい利用者の皆さんはストレスが高まり、感情や行動のコントロールが乱れて、人や物にあたってしまうこともあります。支援者は寄り添いながら、支援の方法や環境の整備を模索し、とりくみをすすめています。細やかな施設の整備にはお金がかかります。一部、助成金もありますが、新規の施設に限るなど、活用することはなかなかできません。大掛かりな環境整備は尚更です。

感染対策とより良い環境づくりで 笑顔で元気に「働き」「暮らす」場を

そんな現状を少しでも良くしていきたい。感染対策のための検査キットの確保やよりよい環境づくりのために 京都ワークハウス後援会は、今年も「ひろがれ募金」に取り組みます。障害のある皆さんが笑顔で生活できるよう、ご理解とご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

募金方法

- 現金 募金袋にお名前・募金額 (※恐れ入りますが、ご担当者様にて集約お願い致します)
- 振込用紙 『 1口 1000円 』(何口でも)でお振込み願います



2024年 11月, 12月 京都ワークハウス後援会
社会福祉法人京都ワークハウス

